



最初にお読みください

CentreCOM® FS808M/FS816M リリースノート

この度は、CentreCOM FS808M/FS816M（以下、CentreCOM を省略）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 1.0.3

2 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 1.0.2 から 1.0.3 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

2.1 SET CONSOLE TIMEOUT コマンドのタイムアウト時間

 参照「コマンドリファレンス」 / 「ターミナルサービス」

SET CONSOLE TIMEOUT コマンドに設定可能な最大値が 2147483647（秒）から 32767（秒）に変更されました。

3 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 1.0.2 から 1.0.3 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 コマンド入力途中で？キーによるヘルプを表示したあと、Backspace キーや Delete キーでコマンドを編集し実行すると、エラーが表示されること、またはコマンドが正しく実行されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.2 SNMP マネージャーからブリッジ MIB の dot1dTpFdbTable を取得しようとする時、本製品の SNMP エージェントが応答しなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.3 SNMP マネージャーからの SNMPv3 Get Request に対して、本製品が応答することがありましたが、これを修正しました。
- 3.4 オブジェクト ID : 1.3.6.1.2.1.2.2.1.0 (ifTable.ifIndex.0) の Get Request に対して不正に値を返していましたが、エラーで応答をするように修正しました。
- 3.5 ログインプロンプトが表示される直前の約 1 秒間に、VLAN やポートの設定を無視してパケットが送信されることがありましたが、これを修正しました。

- 3.6 SET SNMP LISTENPORT コマンドによる SNMP のUDP ポート変更時、設定内容が正常であるにもかかわらず「A Port number was not able to be changed」という不正なメッセージが表示されていましたが、表示されないように修正しました。
- 3.7 SNMP でdot1dTpFdbPort を取得中に SHOW SYSTEM コマンドを実行すると、本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.8 コンソールポート経由で Telnet 接続すると表示が正しく行われなかったことがありますが、これを修正しました。
- 3.9 アクセスフィルターで、ICMP を許可 (PASS)、GLOBAL を破棄 (DISCARD) という設定をした場合に、ICMP が許可されずに破棄されていましたが、これを修正しました。
- 3.10 ARP パケットにより本製品宛ての通信に負荷をかけるバッファが枯渇することがありましたが、これを修正しました。
- 3.11 同一ポートに対してタグ VLAN とマルチプル VLAN (Protected Ports VLAN) の設定ができていましたが、エラーとして設定できないように修正しました。

4 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 1.0.3 には、以下の制限事項があります。

4.1 IP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」**

DHCP による IP アドレスの自動設定を行ったあと、IP アドレスを手動設定に切り替える場合は、SET IP コマンドで、MASK または GATEWAY パラメーターも同時に設定しなおすようにしてください。

4.2 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「SNMP」**

SNMP マネージャーにて、SNMPv2 の Get Bulk Request を実行する際、non-repeaters パラメーターに 0 (ゼロ) 以外の値を設定しないようにしてください。

4.3 フローコントロール

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

BPDU 透過機能が有効の場合、PAUSE フレーム受信によるフローコントロールは有効になりません。

4.4 スタティックエントリーの登録数

 **「コマンドリファレンス」 / 「フォワーディングデータベース」**

スタティックエントリーは最大 512 件まで登録可能ですが、MAC アドレスの値によっては、512 件まで登録できないことがあります。

5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書 (Rev.A)、および「CentreCOM FS808M/FS816M コマンドリファレンス 1.0.1 (Rev.B)」の補足事項、または誤記訂正です。

5.1 フォワーディングデータベースの登録数に応じた画面表示の違い

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

次のコマンドを実行する際、フォワーディングデータベースに登録されている MAC アドレスの数に応じて画面に表示されるメッセージが異なります。

- ADD VLAN
- DELETE VLAN
- CREATE SWITCH TRUNK
- ADD SWITCH TRUNK
- DELETE SWITCH TRUNK

たとえば、MAC アドレスの登録数が 100 件未満の場合、次のように表示されます。

```
Manager > create switch trunk=uplink port=2 Enter  
Operation successful.
```

しかし、たとえば MAC アドレスの登録数が 100 件以上の場合、次のように表示されます。処理の経過ごとにピリオドが増えていきます。

```
Manager > create switch trunk=uplink port=2 Enter  
FDB Clear.....  
Operation successful.
```

MAC アドレスの数が多の場合、この処理に、最長で約 2 分かかることがあります。

5.2 無効のポートでの受信カウンター

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

ポートの状態を無効にしている場合であっても、そのポートで最初にデータを受信した際だけ、カウンターが 1 パケット分カウントアップされます。データが何パケットであっても、カウントアップされるのは 1 パケット分だけです。データ自体は転送されません。

5.3 ポートミラーリングの設定手順

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

「概要・基本設定」の「ポートミラーリング」の基本設定において、手順 2 と手順 3 の順序が逆に記載されています。手順 2 で ENABLE SWITCH MIRROR コマンドを実行すると、エラーで設定が反映されません。正しくは以下の順序になりますので、訂正してお詫びいたします。

2. ソースポートとトラフィックの向きを指定します。

```
SET SWITCH PORT=5 MIRROR=BOTH ↓
```

3. ポートミラーリング機能を有効にします。

ENABLE SWITCH MIRROR ↓

あらかじめミラーポートの指定（手順 1）とソースポートの指定（手順 2）を行ってから、ポートミラーリング機能を有効にします（手順 3）。

5.4 ポートミラーリングでのフローコントロール

 **【コマンドリファレンス】 / 【スイッチング】**

ポートミラーリング機能でもフロー制御が行われます。ミラーリングのソースポートを複数ポート以上で指定し、ミラーリング機能を有効に設定している場合、ミラーポートで輻轉すると、ソースポートから PAUSE フレームが送信されます。ソースポートとして設定されていないポートからは PAUSE フレームは送信されません。

5.5 FS816M のポートミラーリング

 **【コマンドリファレンス】 / 【スイッチング】**

FS816M でポートミラーリングを行う際には、ソースポートとミラーポートを、次の 2 グループの同一グループ内で指定するようにしてください。

- ・ ポート 1～8
- ・ ポート 9～16

ソースポートとミラーポートのグループが異なると、パケットがミラーポートに二重に出力されます。

5.6 タグなしポートからの送信パケット長

 **【コマンドリファレンス】 / 【スイッチング】**

タグなしパケットには、スイッチ内部で 4Byte のタグが付加されます。このため、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される ifInOctets（受信オクテット数）と ifOutOctets（送信オクテット数）には、実際に受送信した総オクテット数よりも大きな値が表示されます。

送信時には、ポートのタグ付きまたはタグなしの属性に応じて正しいパケットが送信されます。つまり、タグ付きポートから送信されるパケットには 4Byte のタグが付加されたまま送出され、タグなしポートから送信されるパケットからは内部処理で付加された 4Byte のタグは削除されてタグなしパケットとして送出されます。

たとえば、64Byte のタグなしパケットを受信した場合、スイッチ内部では 68Byte のパケットになりますが、タグ付きポートからは 68Byte のタグ付きパケットとして送出され、タグなしポートからは 64Byte のタグなしパケットとして送出されます。

5.7 SET CONSOLE TIMEOUT コマンドのタイムアウト時間

 **【コマンドリファレンス】 / 【ターミナルサービス】**

ソフトウェアバージョン 1.0.2 から 1.0.3 へのバージョンアップにおいて、SET CONSOLE TIMEOUT コマンドに設定可能な最大値が 2147483647（秒）から 32767（秒）に変更されましたので、訂正してお詫びいたします。

5.8 タグ VLANとマルチプル VLAN の併用

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

同一ポートに対して、タグ VLAN とマルチプル VLAN (Protected Ports VLAN) を設定することはできません。

5.9 アクセスフィルターの設定内容の確認

 **「取扱説明書」 98 ページ**

手順 14 (97 ページ手順 7～9 の設定内容を確認するコマンド) の記載に誤りがありましたので、以下のとおり訂正してお詫びいたします。

14 SHOW ACCESS FILTER コマンドでグローバルグループの設定を確認します。

```
Manager > show access filter=global 
```

GLOBAL:

Access Filtering Enabled

Port -

Default Discard

Entry	IP	MASK	Action	Port
1	192.168.10.100	255.255.255.255	PASS	14

5.10 ソフトウェアバージョンアップの注意事項

 **「取扱説明書」 73、107 ページ**

 **「コマンドリファレンス」 / 「アップロード・ダウンロード」**

- FTP にて、ソフトウェアをバージョンアップする場合、FTP クライアントソフトのタイムアウトの設定によっては、ソフトウェアのダウンロード途中でタイムアウトと判断され、FTP セッションが切断されてしまうことがあります。ただし、この場合でも、ソフトウェアのダウンロードは正常に終了しています。

コンソールまたは Telnet で本製品にログインした状態で FTP を実行すると、ソフトウェアのダウンロード終了時に、「Completed」のメッセージが表示されますので、ダウンロードが終了したことを確認できます。

- FTP/TFTP を使用してソフトウェアをバージョンアップする場合は、ファイルのダウンロード終了後、本体前面の FAULT LED が消灯していることを確認し、本製品を再起動してください。取扱説明書などにも記載しておりますが、本製品の再起動後にソフトウェアが有効になりますので、必ず再起動していただきますようお願いいたします。

Xmodem を使用してソフトウェアをバージョンアップする場合は、再起動する必要はありません。

5.11 ポートランキングの準拠規格

 **「取扱説明書」 116 ページ**

取扱説明書に記載がありませんが、本製品がサポートするポートランキング機能は IEEE 802.3ad Link Aggregation (Manual Configuration) に準拠しています。訂正してお詫びいたします。

6 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM FS808M/816M コマンドリファレンス 1.0.1 (J613-M6983-03 Rev.B)」は弊社 Web サイトに掲載されています。本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「J613-M6983-03 Rev.B」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>